

論理的思考	「心理學講座」(中山書店)	5	28—12
農民のパーソナリティー	東洋文化研究所紀要	5	29—2
漁民のパーソナリティー	東洋文化研究所紀要	7	30—3
よそゆきことば・ふだんのことば	「ことばの講座」(創元社)	5	31—3
ハーンの日本文化觀	東洋文化研究所紀要	11	31—11
(未發表)			
文化と傳承, 國民性	「社會心理學」(誠信書房)		
言語の社會心理學	「社會心理學講座」(中山書店)		
福 島 正 夫			
* 明治初年地租改正基礎資料	有 斐 閣	5, 6	28—5 31—6
* 地租改正と森林所有權	林野廳 (プリント)		30—10
* 明治民法の制定と穂積文書	有 斐 閣		31—7
* 明治二十六年全國山林原野入會慣行調査資料,	明治民法制定經過研究會	1, 5	31—10, 11
明治初期の經濟政策と資本蓄種の問題 ——大久保・大隈構想と松方構想——	東 洋 文 化	9	27—6
明治初年における戸籍の研究 ——地方法會を通して——	穂積重遠先生追悼論文集「家族法の諸問題」		27—7
現代の中國法研究の問題點	現 代 中 國	17	28—9
新中國の司法制度とその特質	東 洋 文 化	13—14	28—9 29—1
司法制度——その特質と機能——	季 刊 法 律 學	17	29—1
地租改正と土地所有權	土 地 制 度 史 學	2	29—10
新中國における農民的土地改有の性格 ——ソ同盟土地立法の發展と對比して——	東 洋 文 化	17	29—11
山林の家と資本主義 ——飛驒白川村の分家事件を通じて——	東洋文化研究所紀要	6	29—11
新憲法下の中國人民法院	ソ ヴ ェ ト 法 學	1—5	31—4
明治前半における「家」制度の形成 ——徴兵制および町村制の推移と關連して——	法社會學會編「家族制度の研究」上巻,		31—5
わが國都市家族の近代性と前近代性	都 市 問 題	47—6	31—6
部落有林野の形成	東洋文化研究所紀要	11	31—11

荒 松 雄

16・7 世紀におけるエスパニアのアジア貿易	歴 史 學 研 究	149	25— 1
インド村落共同体研究についての覚書 ——19 世紀におけるイギリス人による諸論考——	東洋文化研究所紀要	2	26— 9
ア ジ ア の 社 會	「世界地理大系」(河出書房)	5	27— 2
インド人の生活と社會	「世界文化地理大系」(平凡社)	10	29— 6
デリー・サルタナット初期におけるスルターンンの繼承	東洋文化研究所紀要	8	31— 3
ネルーの背後にあるもの ——インドの政治と社會——	中 央 公 論	814	31— 7
「奴隸王朝」の君主權と貴族勢力 ——デリー・サルタナット初期における支配構造——	東洋文化研究所紀要	11	31—11

・小 野 忍

△ 趙樹理「結婚登記」	岩 波 書 店		28— 5
△ 矛 盾「腐 蝕」	筑 摩 書 房		29— 6
△ 駱賓基「北望園の春」	岩 波 書 店		30— 3
△ 現代中國文學全集, 趙樹理篇	河 出 書 房		31— 1
趙 樹 理	群 像	9	29— 9
矛 盾——人 と 作 品——	東 洋 文 化	17	29—11
中國の新文學及び近代藝術の傳統と創造	倉石武四郎編「變革期中國の研究」		30— 4
外國における魯迅	魯迅選集別卷「魯迅案内」		31—10

坂 野 正 高

* 中國外交文書辭典(清末篇) (植田教授他と共著)	學 術 文 獻 普 及 會		29— 3
阿片戰爭後における最惠國條款の問題 外交交渉における清末官人の行動様式 ——一八五四年の條約改正を中心とする考察——	東 洋 文 化 研 究	6	22—10
第一次大戦から五卅まで ——國權回復運動史覺書——	國 際 法 外 交 雜 誌	46—4, 6	24—10, 12
「總理衙門」と設置の背景	植田捷雄編「現代中國を繞る世界の外交」		25— 3
「戦後世界政治と米國」第三部, 「中國」 (衛藤濠吉氏と共同執筆)	國 際 法 外 交 雜 誌	51— 5 53— 3	27—10 23— 6
	日 本 政 治 學 會 年 報 1954年度		29— 3

1848年清浦事件の一考察 ——清末官人の條約解釋の一例として——	人文學報	11	29—2
花村芳樹			
△ウィリアム・ヴォート 生き残る道 (飯塚教授と共譯)	トッパン		25—8
姉體村調査報告	東洋文化研究所紀要	5	29—2
衛藤瀋吉			
* 中國外交文書辭典(清末篇) (植田教授等と共編)	學術文獻普及會		29—3
阿片戰爭以前における英國商人の性格	東洋文化研究所紀要	3	27—6
「戰後世界政治と米國」第三部,「中國」 (坂野正高氏と共同執筆)	日本政治學會年報 1954年度		29—3
砲艦政策の形成 ——1834年清國に對する——	國際法外交雜誌	53—3 53—5	29—8 30—4
新中國外交政策の基調	アジア問題	1—1	29—9
ミッチェル報告書について	東洋文化	20	31—1
中國共產黨と抗日民族統一戰線方式	アジア研究	3—1	31—10
小堀巖			
滿洲族薩滿の祭祀を見て ——黑河省瑗瑋縣大五家子村の場合——	民族學研究	14—1	24—14
滿洲に於ける民族複合現象の一例 ——滿洲屯とオランハルガノ——	新地理	3—6	24—10
條里制施行の地理的基礎	「人文科學の諸問題」		24—10
瑗瑋附近の滿洲族の言語について	民族學研究	14—2	24—12
八學會の對馬調査はどのようにして行 われたか	人文	1—1	26—5
中國の社會	「世界地理大系」 (河出書房)		27—3
中國における近代地理學(上・中)	東洋文化研究所紀要	5,6	29—2,11
地理學本質論争の課題 ——ソビエトを一例として——	東洋文化研究所紀要	8	31—3
古島和雄			
明末長江デルタにおける地主經營	歴史學研究	148	25—11
中世における民族の問題	歴史學研究會編「歴史における民族の問題」		26—12

補農書の成立とその地盤	東洋文化研究所紀要	3	27—6
中國における農業革命と農民解放の實態	山田盛太郎編「變革期における地代範疇」		31—9
抗日時期の中共の土地政策	東洋文化研究所紀要	10	31—11
堀 敏 一			
中國における封建國家の形態	歴史學研究會編「國家權力の諸段階」		25—10
唐末諸叛亂の性格 ——中國における貴族政治の没落について——	東 洋 文 化	7	26—11
五代宋初における禁軍の發展	東洋文化研究所紀要	4	28—3
高 木 宏 夫			
明治宗教社會史 (小口助教授と共同執筆)	開國百年記念文化事業會「明治文化史」	6	29—3
移民による宗教の變化	「海外移民が母村に及ぼした影響」 (東大出版會)		29—2
宗教×團の成立過程 ——天理教の場合——	東洋文化研究所紀要	6	29—11
日本人の宗教生活の實態 ——庶民宗教の構造よりみた——	「現代宗教講座」 (創元社)	5	30—5
宗教的行動の諸類型	「宗教と信仰の心理學」(河出書房)		31—11
宮 川 透			
* 近代日本思想の構造	東京大學出版會		31—5
日本に於ける近代哲學形成史の一斷面 ——特に田邊哲學に於けるドイツ・イデアリスムス解釋を中心に——	東 洋 文 化	15/16	29—3
福澤諭吉に於ける「啓蒙精神」の構造 ——その歴史的人間像把握のための一視角の設定——	東洋文化研究所紀要	6	29—11
日本啓蒙思想の構造 ——「民選議院」問題を中心として——	思 想	376	30—10
大正デモクラシーとその思想	哲 學	6	31—3
幕 末 の 諸 思 想	「近代日本思想史」 (青木書店)	1	31—8
近代日本思想史における傳統思想と外來思想	「近代日本思想史」 (青木書店)	3	31—10
日本における「フィロソフィア」の受容 ——特に、西周における「哲學」の概念の成立過程の考察——	東洋文化研究所紀要	11	31—11

佐伯 有 一

15 世紀福建の農民叛亂 [1] (田中正俊氏と共同研究)	歴 史 學 研 究	167	29— 1
明末の農民と手工業者をめぐつて	歴史學研究会編「世界史におけるアジア」		29—12
中國の労働者についての覺書	東 洋 文 化	18/19	30— 3
明清帝國時代の東アジア世界	「世界歴史講座」 (東洋經濟新出版社)	1	30— 8
16・7 世紀の中國農村製絲絹織業 (田中正俊氏と共同研究)	「世界歴史講座」 (東洋經濟新出版社)	1	30— 8
明前半期の機戸	東洋文化研究所紀要	8	31— 3
匠役制の崩壊と絹織物商品流通の展開 (未発表)	東洋文化研究所紀要	10	31—11
明清時代における小商品生産の發達について	東京大學出版會「時代區分の諸問題」		

中 根 千 枝

チベット史における年代基準の決定について	東洋文化研究所紀要	5	29— 2
Tripura 州原住民に関する民族學的調査報告	民 族 學 研 究	19— 1	30— 2

大 林 太 良

* 東南アジア大陸諸民族の親族組織	東洋文化研究所・ 日本學術振興會		30—12
日本の人種・民俗・宗教 (江上教授と共同執筆)	「日本地理新大系」 (河 出 書 房)	2	27—12
アッサムの籬段耕作	東洋文化研究所紀要	6	29—11
東南アジアに於ける豚飼養の文化史的 地位	東洋文化研究所紀要	7	30— 3
東南アジアの日蝕神話の一考察	東洋文化研究所紀要	9	31— 3
極北民族の生活	現 代 地 理	5	31—
東北シベリア海岸文化の諸問題 ——學史的展望——	東洋文化研究所紀要	11	31—11

大 野 盛 雄

北海道の沿岸漁業 (I) (飯塚教授等と共同研究)	プ リ ン ト		29— 9
------------------------------	---------	--	-------

生 松 敬 三

- 町人文學と町人道德 東 洋 文 化 15/16 29— 3
- 森鷗外のドイツ留學をめぐる思想史的
考察 東洋文化研究所紀要 8 31— 3
- 明治二十年代における森鷗外
——いわゆるその「戰鬪的啓蒙」活動を
めぐつて—— 思 想 381 31— 3
- 明治二十年代の新しい諸思潮 「近代日本思想史」
(青木書店) 2 31— 9
- 昭和におけるモダニズム的思潮 「近代日本思想史」
(青木書店) 3 31—10
- 明治三十年代における森鷗外
——とくに小倉時代に—— 東洋文化研究所紀要 11 31—11

重 田 徳

- 清初における湖南米市場の一考察 東洋文化研究所紀要 10 31—11

佐 藤 達 夫

- 秩父吉丸の石器 (小林茂氏と共同執筆) 考 古 學 雜 誌 39— 3/4 29— 3
(未發表)

東亞細亞石器文化に関する諸問題 (助手論文)

鈴 木 忠 和

- フィリッピン・ダバオにおける
日本人の發展 東 洋 文 化 研 究 5,6 22— 8,10

鈴 木 中 正

- 羅教について
——清代支那宗教結社の一例—— 東洋文化研究所紀要 1 18—12
- 清代に於ける宗教的叛亂の性格 東 洋 文 化 研 究 9 23— 9

山 口 修

- キヤンとボルヂキン
——元朝秘史覺書その一—— 東洋文化研究所紀要 2 25— 9

小 倉 芳 彦

- 論語の性格 東洋文化研究所紀要 4 28— 3

C 東洋文化研究所紀要

第 1 冊 (昭和 18 年 12 月)

ロシアと「東洋」との交渉 (一).....	飯塚浩二
安南が獨立國を形成したる過程の研究.....	山本達郎
支那に於ける基督教宣教師の法律的地位.....	植田捷雄
南方地域の貿易事情.....	橋本秀一
北京の工商ギルドと其の沿革 (初篇一).....	仁井田陞
ダイヤク諸族に於ける神祇觀念 (一).....	宇野圓空
南方原住民の經濟志向に就て.....	川野重任
羅教について——清代支那宗教結社の一例——.....	鈴木中正

第 2 冊 (昭和 25 年 9 月)

五代節度使の牙軍に關する一考察

——部曲との關聯において——.....	周藤吉之
中國農村社會の家族共產制.....	仁井田陞

インド村落共同體研究についての覺書

——十九世紀におけるイギリス人による諸論考——.....	荒松雄
琉球の歸屬を繞る日清交渉.....	植田捷雄
唯識二十論の背景思想とその製作についての梗概.....	結城令聞
キャンとボルヂギン——元朝祕史覺書 その一——.....	山口修
オングト部における景教の系統とその墓石.....	江上波夫

第 3 冊 (昭和 27 年 6 月)

阿片戰爭以前における英國商人の性格.....	衛藤瀋吉
------------------------	------

補農書の成立とその地盤.....	古島和雄
------------------	------

「大正文化」批判の課題

——特に三木哲學の史的構造分析——.....	宮川透
------------------------	-----

秦漢時代における亭の變遷

——村落組織の編成方法との聯關を中心として——……………松 本 善 海

東洋文化研究所要覽

第 4 冊 (昭和 28 年 3 月)

宋代莊園制の發達……………周 藤 吉 之

五代宋初における禁軍の發展……………堀 敏 一

白晝源流考……………米 澤 嘉 圃

一貫道について……………窪 德 忠

論 語 の 成 立……………小 倉 芳 彦

日本貿易と東南アジア……………橋 本 秀 一

ダライノールとホロンバイル

——戰爭末期における北滿遊牧地帯の點描——……………飯 塚 浩 二

第 5 冊 (昭和 29 年 2 月)

農民のパーソナリティ

——北上川中流域の農村の場合——……………築 島 謙 三

姉體村調査報告

——農地改革の過程を中心に——……………花 村 芳 樹

殷王朝の生産的基盤……………關 野 雄

チベット史における年代基準の決定について……………中 根 千 枝

黎氏安南の財産相續法と中國法……………仁 井 田 陞

中國における近代地理學 (上) ………………小 堀 巖

永樂大典本「淨髮須知」について

——理髮業ギルドの祖師の説話——……………仁 井 田 陞

內蒙古百靈廟砂凹地の古墳……………江 上 波 夫

パリ-亞細亞協會所藏安南本目錄……………山 本 達 郎

第 6 冊 (昭和 29 年 11 月)

山村の「家」と資本主義

——飛彈白川村の分家事件を通じて——……………福 島 正 夫

アッサムの籾段耕作	大 林 太 良
福澤諭吉に於ける「啓蒙精神」の構造	
——その歴史的人間像把握のための一視角の設定	宮 川 透
宗教教團の成立過程	
——天理教の場合	高 木 宏 夫
中國における近代地理學（中）	小 堀 巖
第 7 冊（昭和 30 年 3 月）	
先秦貨幣の重量單位について	關 野 雄
東南アジアに於ける豚飼養の文化史的地位	大 林 太 良
漁民のパーソナリティー	
——七尾灣岸の漁村の場合	築 島 謙 三
マン族の山關簿	
——特に古傳説と移住經路に就いて	山 本 達 郎
第 8 冊（昭和 31 年 3 月）	
南宋郷都の税制と土地所有	周 藤 吉 之
元明時代の村の規約と小作證書など	
——日用百科全書の類二十種の中から	仁 井 田 陞
明前半期の機戸	
——王朝權力による掌握をめぐつて	佐 伯 有 一
森鷗外のドイツ留學をめぐる思想史的考察	生 松 敬 三
デリー・サルタナット初期におけるスルターンの繼承	荒 松 雄
趙樹理の新作「三里灣」をめぐつて	小 野 忍
地理學本質論争の課題	
——ソヴィエトを一例として	小 堀 巖
第 9 冊（昭和 31 年 3 月）	
唯物史觀と文化人類學	
——とくに文化の構造と人間性の問題をめぐつて	石 田 英 一 郎

匈奴の經濟活動

——牧畜と掠奪の場合——……………江上波夫

宋代の詭名寄産と元代漢人の投獻

——佃戸制との關聯に於いて——……………周藤吉之

日本に傳來した三尸信仰の一側面

——三尸驅除法を中心として……………窪徳忠

東南アジアの日蝕神話の一考察……………大林太良

東京大學東洋文化研究所大木文庫分類目録 内編

第 10 冊 (昭和 31 年 11 月)

魏の屯田制

——特にその廢止問題をめぐつて——……………西嶋定生

北魏における均田・三長兩制の制定をめぐる諸問題……………松本善海

敦煌發見戸制田制關係文書十五種……………山本達郎

宋代の圩田と莊園制

——特に江南東路について——……………周藤吉之

中國の同族又は村落の土地所有問題

——宋代以後のいわゆる「共同體」——……………仁井田陞

明代匠役制の崩壞と都市絹織物業流通市場の展開……………佐伯有一

清初における湖南米市場の一考察……………重田徳

抗日時期の中共の土地政策……………古島和雄

土地改革の社會經濟的意義

——東南アジア諸國の場合——……………川野重任

部落有林野の形成……………福島正夫

第 11 冊 (昭和 31 年 11 月)

「奴隸王朝」の君主權と貴族勢力

——デリー・サルタナット初期における支配の構造……………荒松雄

東洋史と西洋史とのあいだ

——世界史と世界地理との交渉——	飯塚浩二
明治三十年代における森鷗外	
——とくに小倉時代を中心に——	生松敬三
日本をめぐる領土問題	
——千島・南樺太・臺灣及び沖繩の法的地位——	植田捷雄
東北地方における館址の調査 豫報	江上波夫
	關野雄
	佐藤達夫
東北シベリア海岸文化の諸問題	
——學史的展望——	大林太良
一貫道補考	
——一貫道是什麼東西の紹介——	窪徳忠
宗教的講の機能	
——教團組織の基底としての——	高木宏夫
ハーンの日本文化觀	
——「日本の面影」を書くまでのハーンについて——	築島謙三
一九五五年緬甸經濟白書	
——緬甸經濟の構造轉換——	橋本秀一
日本における「フィロソフィア」受容過程	
——特に西周における「哲學」の概念——	宮川透
玄奘とその學派の成立	結城令聞
中國古代における顔料の産地	米澤嘉圃

Ⅶ 研究活動

A 研究会

昭和 22 年

- 第 1 回 (1 月 22 日) 中國における社會的倫理の性格……………仁井田 陞
 清朝の儉約令の政策的意義……………鈴木中正
- 第 2 回 (2 月 4 日) 支那の工業化……………橋本秀一
- 第 3 回 (2 月 25 日) 戦後の一農村より……………鈴木忠和
- 第 4 回 (2 月 27 日) 農地制度の諸問題……………川野重任
- 第 5 回 (3 月 4 日) 風害の構造……………川田信一郎
- 第 6 回 (3 月 11 日) 北鮮より歸りて……………鎌田正二
- 第 7 回 (5 月 6 日) アジア的なるものとアジア的生産様式……………幼方直吉
- 第 8 回 (5 月 20 日) 極東國際裁判について……………植田捷雄
- 第 9 回 (5 月 27 日) ロスの「日本のジレンマ」……………鶴見和子
- 第 10 回 (6 月 3 日) エスパニア人のフィリピン貿易……………荒松雄
- 第 11 回 (6 月 10 日) 世界史と遊牧民——成吉思汗の覇業
 の社會經濟的基礎——……………飯塚浩二
- 第 12 回 (6 月 24 日) 未開思惟の問題……………築島謙三
- 第 13 回 (7 月 1 日) 華語の問題……………魚返善雄
- 第 14 回 (7 月 4 日) いわゆる東洋的社會について……………鞍田純
- 第 15 回 (10 月 7 日) 日本農政の主體……………鈴木忠和
- 第 16 回 (10 月 21 日) 戦時中の中國文學……………竹内好
- 第 17 回 (11 月 25 日) 遊牧民の性格……………江上波夫
- 第 18 回 (12 月 2 日) 米國新着雜誌の紹介……………山本達郎
- 第 19 回 (12 月 16 日) 近世中國の國內商業……………藤井宏
- 第 20 回 (12 月 23 日) 呪的社會構成——マクス・ウェーバーに
 おけるカリスマの問題……………小口偉一

昭和 23 年

- 第 21 回 (1 月 20 日) 根岸佶博士著「中國社會に於ける指導層」
 への批判……………松本善海

- 第22回 (1月27日) 馬と中國古代文化……………石田英一郎
- 第23回 (2月3日) 西洋近代畫と明治以降の日本畫壇……………吉川逸治
- 第24回 (2月10日) 新東亞に於ける日本農業の地位……………川野重任
- 第25回 (2月17日) 山水畫と風水論……………米澤嘉圃
- 第26回 (2月24日) パラオ島民の法的秩序……………杉浦健一
- 第27回 (3月1日) 朝鮮雜感……………高橋幸八郎
- 第28回 (3月9日) 終戰直後の朝鮮……………鵜飼信成・有泉亨
- 第29回 (3月16日) アメリカ最近の社會科學研究の現状……………南博
- 第30回 (3月23日) 中國内戰の新段階……………田代正夫
- 第31回 (3月30日) Hsien Chin Hu 著「中國人の顔の觀念」
の紹介……………築島謙三
- 第32回 (4月20日) 印度の結婚式……………辻直四郎
- 第33回 (4月27日) 漁業における資本主義の發達……………小沼勇
- 第34回 (5月4日) 米華通商航海條約と在華米國會社の法的
地位……………植田捷雄
- 第35回 (5月11日) 鑛山における労働者集團としての友子……………松島靜雄
- 第36回 (5月18日) 漁業の發達と漁業制度……………久宗高
- 第37回 (5月25日) 清末における嶺南の儒風……………麓保季
- 第38回 (6月1日) 現代心理學の理論的展開……………相良守次
- 第39回 (6月8日) 東洋に於ける經濟開發とその歸結——ユ
ージン・ステレー「東洋の經濟開發
に於ける二つの問題」を中心に——……………川野重任
- 第40回 (6月22日) 浮浪兒の實態とその保護……………大宮録郎
- 第41回 (6月29日) チンギス・ナーメの説話……………小林高四郎
- 第42回 (7月13日) 東洋文化研究の今後の方向についての討
論會
- 第43回 (9月21日) 中國古代帝國形成の一考察……………西嶋定生

- 第44回 (9月28日) 清末對外交渉のメカニズム——1854年の
 條約改正交渉を中心とした一考察——…坂野正高
- 第45回 (10月12日) 佛教と道教との交渉……………窪徳忠
- 第46回 (10月26日) 黎明期の日本……………江上波夫
- 第47回 (11月9日) 中國の農村と日本の農村……………福武直
- 第47回 (11月16日) 京都大學東洋史談話會 (11月7日) お
 よび人文科學委員會第2部 (史學) 大
 會(11月2・3日於京都)の報告を中心と
 して……………西嶋定生・江上波夫
- 第49回 (11月26日) 中國における水利灌溉……………今堀誠二
- 第50回 (11月30日) 古典古代の社會……………村川堅太郎
- 第51回 (12月14日) 宋代の莊園制……………周藤吉之
- 昭和24年**
- 第52回 (1月25日) 中國工商ギルドの職業倫理……………仁井田陞
- 第53回 (2月8日) 將門の叛亂——古代末期叛亂の特質——…石母田正
- 第54回 (2月15日) 清代商人の一性格……………里井彦七郎
- 第55回 (3月8日) コーカサス見聞談……………吉田金一
- 第56回 (3月15日) ソヴェート經濟・理論と現實 ——シベ
 リアより歸りて——……………天澤不二郎
- 第57回 (4月15日) 中國解放地區の新文化……………島田政雄
- 第58回 (4月22日) 研究課題についての討論會
- 第59回 (5月6日) 島田虔次著「中國に於ける近代思惟の挫
 折」について……………後藤基巳
- 第60回 (5月13日) 近代性の反省……………山本達郎
- 第61回 (5月20日) 佛教と近代精神……………中村元
- 第62回 (5月27日) 日本軍隊の一分折……………飯塚浩二
- 第63回 (5月31日) 日本における近代的思惟……………まつしま・えいいち

- 第64回 (6月10日) 日本古代文學における女性の地位……………西郷信綱
- 第65回 (6月17日) 日本の傳統・近代精神・キリスト教……………E・デュモリン
- 第66回 (6月24日) 中國近世史の課題……………松本善海
- 第67回 (9月24日) 中國繪畫における庶民……………米澤嘉圃
- 第68回 (10月14日) アメリカ人文科學使節團報告をめぐつて…築島謙三
- 第69回 (10月21日) インドシナ諸國の王權の性格について……………山本達郎
- 第70回 (10月28日) 明治維新と國際情勢……………遠山茂樹
- 第71回 (11月11日) 中國經濟に關する一試論……………大橋育英
- 第72回 (11月18日) 華北に於ける農業技術の水準……………福島要一
- 第73回 (11月28日) 華南農村の性格……………天野元之助
- 第74回 (11月29日) 華北村落における土地と人……………旗田巍
- 第75回 (12月9日) 黄河治水の變遷 ——特に技術と政策を
中心に——……………安藝皎一
- 第76回 (12月16日) 黄土の土壤學……………菅野一郎
- 昭和25年**
- 第77回 (1月20日) 北海道移住民の變容……………泉靖一
- 第78回 (1月27日) 後進國の經濟發展と人口 ——ノート
シュタインの理論を中心として——……………川野重任
- 第79回 (2月10日) 毎日新聞社「世界の歴史・東洋」合評會
- 第80回 (2月17日) 日本の開國と中國……………植田捷雄
- 第81回 (2月24日) 中國の農村家族……………仁井田陞
- 第82回 (3月3日) 山村の社會心理學的考察 ——長野縣諏
訪郡湖南村後山部落の例——……………築島謙三
- 第83回 (3月10日) 神道とシャマニズム……………小口偉一
- 第84回 (3月17日) 日本の人口問題……………館稔
- 第85回 (3月24日) 考古學上よりみたるアリア文化の問題…江上波夫
- 第86回 (4月14日) 「人々の哲學」について……………飯塚浩二

- 第87回 (4月21日) 中共土地政策の二つの時期……………村松祐次
- 第88回 (4月28日) 橋樸氏「中國革命史論」について……………花村芳樹
- 第89回 (5月12日) 後進國の經濟開發……………橋本秀一
- 第90回 (5月19日) 中國における職人ギルドについて……………今堀誠二
- 第91回 (5月26日) アメリカにおける文化人類學と社會心理學……………岸本英夫
- 第92回 (6月9日) インド村落共同體研究のメモ……………荒松雄
- 第93回 (6月16日) 臺灣民族抗日運動史……………向山寛夫
- 第94回 (6月23日) アメリカをめぐる……………松本馨
- 第95回 (6月30日) 草原の英雄敘事詩……………山口修
- 第96回 (7月7日) 日本ナショナリズムの諸問題……………丸山眞男
- 第97回 (9月15日) 對馬調査旅行談……………小口偉一・小堀巖・高木宏夫
- 第98回 (9月22日) アメリカにおける東洋研究の動向……………川島武宜
- 第99回 (9月28日) 尻屋崎遺跡發掘報告……………江上波夫
- 第100回 (10月6日) Macrolinguistics と Microlinguistics……………江實
- 第101回 (10月13日) 宋代官僚制と大土地所有……………周藤吉之
- 第102回 (10月20日) 綜合科學史の構成……………湯淺光朝
- 第103回 (10月27日) 「家族共同體」について……………布村一夫
- 第104回 (11月10日) 松田智雄著「イギリス資本と東洋」をめぐる二三の問題……………衛藤藩吉
- 第105回 (11月15日) 板野長八氏を圍む會
- 第106回 (11月17日) 西洋中世世界の成立……………増田四部
- 第107回 (11月24日) 庶民宗教としての中日淨土教の相違……………結城令聞
- 第108回 (12月1日) 史記游俠列傳に關する二三の問題……………増淵龍夫
- 第109回 (12月6日) チベットの近況……………木村肥佐生
- 第110回 (12月8日) 中國における「封建」とフェーダリズム……………仁井田陞
- 第111回 (12月15日) 中國史における根本的一疑問……………藤井宏

昭和 26 年

- 第112回 (1月19日) 孔子……………小倉芳彦
- 第113回 (1月26日) ソクラテスとアテナイの民主政について…太田秀通
- 第114回 (2月2日) 中国の木刻畫……………内山完造
- 第115回 (2月9日) 道教教團の性格
——特に金元時代について——……………窪徳忠
- 第116回 (2月16日) 眞宗の發展と一向一揆……………笠原一男
- 第117回 (2月23日) 近代の北支農村……………佐野利一
- 第118回 (2月27日) ミシガン大學日本研究所の活動狀況……………ジョウ・山極
- 第119回 (3月2日) 中国系建築様式の傳播……………飯田須賀斯
- 第120回 (3月9日) 中国政治史上における王朝交替……………松本善海
- 第121回 (3月16日) 唐末諸叛亂の性格……………堀敏一
- 第122回 (3月23日) 殷墟に關する最近の發見……………貝塚茂樹
- 第123回 (4月13日) 地代決定における經濟的と政治的
——經濟外強制論の批判をかねて——…川野重任
- 第124回 (4月20日) 義和團事件と孫文……………江口朴郎
- 第125回 (4月27日) 婚姻法を通じて見たるソ連の社會構造……………福島正夫
- 第126回 (5月11日) 南洋華僑資本の性格……………内田直作
- 第127回 (5月18日) 日支の近代化と國際法……………植田捷雄
- 第128回 (5月25日) 中国經濟發展の量的把握について……………石川滋
- 第129回 (6月1日) 東洋ということばの使い方について……………飯塚浩二
- 第130回 (6月8日) 清國總理衙門の成立 ——開國による
外政機構の形成——……………坂野正高
- 第131回 (6月15日) 中国地理學史の課題……………小堀巖
- 第132回 (6月19日) 中国における宗教の現状……………W・シッファー
- 第133回 (6月26日) チベット叢談……………西川一三
- 第134回 (6月29日) 後進國の經濟構造 ——ポーランドを中

- 心に——……………花村芳樹
- 第135回(7月6日) 文化人類學と心理學……………築島謙三
- 第136回(7月10日) アメリカ旅行談……………相良守次
- 第137回(7月13日) 謝冰心女士を圍む會
- 第138回(7月17日) 香港大學教授S・カービー氏を圍む會
- 第139回(9月21日) 宗教形態の發展・變化について——宗教
學說における進化主義と反進化主義——小口偉一
- 第140回(9月28日) 日本宗教の特質……………高木宏夫
- 第141回(10月5日) 西田哲學の構造分析……………宮川透
- 第142回(10月12日) 明治末道德教育の政治思想史的考察——
家族國家論の形成過程を中心として——石田雄
- 第143回(10月19日) ソヴェート言語學の發展——スターリン
の批判を中心として——……………坂本是忠
- 第144回(10月26日) いわゆる「カントリー・トレード」につ
いて……………衛藤藩吉
- 第145回(11月2日) 中國的佛教の成立……………結城令聞
- 第146回(11月9日) 人類社會結合の基本様式について……………石田英一郎
- 第147回(11月16日) 契丹文字の解讀について……………村山七郎
- 第148回(11月30日) 第二次大戰下における中國社會の變貌……………平等文成
- 第149回(12月7日) 中國における異端思想の系譜……………山本秀夫
- 第150回(12月14日) 米國における日本研究……………M・ジャンセン
- 昭和27年
- 第151回(1月18日) 日本上代彫刻の二様式……………米澤嘉圃
- 第152回(1月29日) 中國中世の寄生地主制……………古島和雄
- 第153回(2月5日) 日本官僚研究 豫報……………泉靖一
- 第154回(2月15日) 漁業勞働關係の分析 ——以西底曳網漁
業の調査より——……………潮見俊隆

- 第155回 (2月22日) 「家」と「氏」とに關する若干の問題提
起 —— 「氏の變更」を通して —— …… 唄 孝 一
- 第156回 (2月29日) 西ヨーロッパの村落共同體について …… 柴 田 三 千 雄
- 第157回 (3月7日) 近世中國の絹織物業 …… 佐 伯 有 一
- 第158回 (3月14日) 内陸アジア社會の停滯と發展 …… 山 田 信 夫
- 第159回 (3月18日) 戰國尺の發見 …… 關 野 雄
- 第160回 (3月25日) 米國におけるロシア研究 …… モ ー ト ン
- 第161回 (3月28日) 日本戰後ナショナリズムの一形態 …… 藤 原 弘 達
- 第162回 (4月4日) 鳥居龍藏氏を圍む會, テイラー氏を圍む
會
- 第163回 (4月18日) }
第164回 (4月25日) } 研究方針についての討論會
第165回 (5月2日) }
- 第166回 (5月9日) 飯塚教授の理論的立場 …… 宮 川 透
- 第167回 (5月16日) 民衆道教の現状 …… 窪 德 忠
- 第168回 (5月30日) 史的唯物論と地理的環境論 —— 社會主義國家における自然改造計畫を中心に
—— …… 小 堀 巖
- 第169回 (6月5,6日) 中國古代農業技術の諸問題 …… 天 野 元 之 助
- 第170回 (6月10日) アメリカにおける東洋研究 …… ボ ル ト ン
- 第171回 (6月13日) 婚姻及び離婚の自由 …… 仁 井 田 陸
- 第172回 (6月20日) インド旅行談 (スライド使用) …… 増 山 元 三 郎
- 第173回 (6月27日) 立川における異民族意識 —— 都市調査
の一例 —— …… 泉 靖 一
- 第174回 (7月4日) 仁井田教授「中國の社會とギルド」によ
せて …… 佐 伯 有 一
- 第175回 (7月8日) 漢字の運命 …… 倉 石 武 四 郎

- 第199回 (4月10日) ソ連におけるアルタイ古代草原文化の研究
 究……………江上波夫
- 第200回 (4月17日) キリスト教の傳來と中國の習俗……………窪徳忠
- 第201回 (4月24日) 秧歌から秧歌劇へ——中國における新
 しい歌劇の成立——……………小野忍
- 第202回 (5月1日) いわゆる民族問題について——最近の
 中國を例として——……………小堀巖
- 第203回 (5月8日) 宗教集團の分裂……………小口偉一
- 第204回 (5月15日) 中國における民族的宗教の成立……………大淵忍爾
- 第205回 (5月22日) 中國の勞働における反封建闘争——親
 分請負制排除の運動について——……………福島正夫
- 第206回 (5月29日) 南北米における日本人……………泉靖一
- 第207回 (6月5日) 東洋における深層心理……………結城令聞
- 第208回 (6月12日) 東南アジア貿易の構造……………橋本秀一
- 第209回 (6月19日) 自作農的秩序の生産性……………川野重任
- 第210回 (6月26日) 殷王朝の生産的基盤……………關野雄
- 第211回 (6月30日) 四川省における土地改革の體驗談……………福地いま
- 第212回 (7月3・4日) 十八世紀フランスと百科全書……………桑原武夫
- 第213回 (7月10日) 唐末の群盜について……………堀敏一
- 第214回 (7月17日) 新中國の政治組織……………松本善海
- 第215回 (9月11日) 日本における中國人の法律的地位
 ——特にその歴史的變遷について——……………植田捷雄
- 第216回 (9月18日) 清代における揚州の繪畫……………米澤嘉圃
- 第217回 (9月25日) 中國社會の家父長權力と所有主體の問題……………仁井田陞
- 第218回 (10月2日) 宋代佃戶の諸階層……………周藤吉之
- 第219回 (10月9日) 中國の土地改革の方法——東北の場合——野間清
- 第220回 (10月16日) 土地制度史上より見た皇帝と官僚

——均田制崩壊後の研究視角として——西 嶋 定 生

- 第 221 回 (10 月 23 日) 清末湖南地方における茶業の構造……………重 田 徳
第 222 回 (11 月 6 日) アッサムの籾段耕作……………大 林 太 良
第 223 回 (11 月 20 日) 遊牧民族の經濟生活——匈奴の場合——…江 上 波 夫
第 224 回 (11 月 27 日) 歐米の人類學界をめぐつて……………石 田 英 一 郎
第 225 回 (12 月 11 日) アイヌの社會組織とその崩壊……………泉 靖 一
第 226 回 (12 月 18 日) 1920年代のシナにおける反基督教運動……山 本 達 郎

昭 和 29 年

- 第 227 回 (1 月 29 日) パースナリティーに關する心理學的諸問
題……………詫 摩 武 俊
第 228 回 (2 月 5 日) パースナリティー調査の考察……………築 島 謙 三
第 229 回 (2 月 12 日) 役場資料の信頼度……………花 村 芳 樹
第 230 回 (2 月 19 日) 農 村 の 教 師……………飯 塚 浩 二
第 231 回 (2 月 26 日) 近代日本思想の形成と展開 ——その位
置付け——……………宮 川 透
第 232 回 (3 月 5 日) 天皇制の精神的支柱……………高 木 宏 夫
第 233 回 (3 月 12 日) 權威主義の宗教——その形成と傳統——…小 口 偉 一
第 234 回 (3 月 19 日) 近 東 の 古 趾……………深 井 晋 司
第 235 回 (3 月 26 日) 森鷗外 ——年譜による概觀——……………生 松 敬 三
第 236 回 (4 月 23 日) 唐代における水墨畫の成立……………米 澤 嘉 圃
第 237 回 (4 月 30 日) 茅盾 ——その人と作品——……………小 野 忍
第 238 回 (5 月 7 日) 中華ソヴェト土地法の成立とその性格……古 島 和 雄
第 239 回 (5 月 14 日) 中國共產黨の土地改革の政治的意味につ
いて ——一つの作業假説——……………衛 藤 藩 吉
第 240 回 (5 月 21 日) ソヴェト土地法の發展と中國土地改革法…福 島 正 夫
第 241 回 (5 月 28 日) 經濟發展における人口問題……………川 野 重 任
第 242 回 (6 月 1 日) 現下の司法と警察……………上 田 誠 吉

- 第243回(6月8日) 新中國における大規模經濟建設の意義……小堀巖
- 第244回(6月11日) 工業化と原料生産……橋本秀一
- 第245回(6月15・16日) 日本勞働組合運動の一斷面……渡邊徹
- 第246回(6月18日) 北海道漁業の諸問題……大野盛雄
- 第247回(6月22日) 文化人類學におけるパーソナリティー……祖父江孝男
- 第248回(6月25日) 南嶽、天臺と四安樂行——中國における社會不安と宗教——……結城令聞
- 第249回(7月2日) 奈良縣上之郷村調査中間報告——特に庚申待を中心として——……窪徳忠・高木宏夫
- 第250回(7月13日) 先秦貨幣の重量單位について……關野雄
- 第251回(7月16日) 新中國の政治組織と法律制度について……松本善海
- 第252回(9月21日) アメリカにおけるアジア研究の現状(談話會)……植田捷雄
- 第253回(9月24日) 中國及び東亞諸民族固有法とその對立抗爭……仁井田陞
- 第254回(10月1日) 抗日戰中における雲南實態調査について…佐伯有一
- 第255回(10月5日) 東洋學者會議に出席して(談話會)……辻直四郎
- 第256回(10月8日) ドイツ、ソ連、中國旅行談(談話會)……山之内一郎
- 第257回(10月12日) 清初・湖南における地主と佃戸……重田徳
- 第258回(10月15日) 古典ヒンヅー法の家産に関する規定について……山崎利男
- 第259回(10月22日) 親族組織研究の最近の動向……大林太良
- 第260回(11月5日) 中米の文化(談話會)……石田英一郎
- 第261回(11月19日) 北海道の所謂連續割裂技術について……佐藤達夫
- 第262回(11月26日) アフガニスタンの遺址と民族(談話會)…岩村忍
- 第263回(11月29日) 中國より歸りて(談話會)……貝塚茂樹
- 第264回(12月3日) 社會調査における意識調査と觀察……泉靖一

- 第265回(12月10日) 宗教的講の社會的役割……………高木宏夫
- 第266回(12月17日) 東洋の文化について(談話會)……………鈴木大拙
- 昭和30年
- 第267回(1月14日) 備兵……………飯塚浩二
- 第268回(1月21日) ヨーロッパ, 近東方面出張歸國談……………江上波夫
- 第269回(1月28日) 農地改革後の自作農 — 岩手における
一農家の事例報告—……………花村芳樹
- 第270回(2月4日) 意識・行動の二元性……………築島謙三
- 第271回(2月11日) 信教自由の問題……………小口偉一
- 第272回(2月18日) イデオロギーについて……………宮川透
- 第273回(2月25日) 日本近代文化の性格についての一考察
—レヴィットの鷗外批判をめぐつて—……………生松敬三
- 第274回(3月4日) 農業における潜在失業と獨占……………川野重任
- 第275回(3月11日) 外壓と清末の政治構造 — S・ライト
「ハートと中國海關」の紹介を中心と
して—……………坂野正高
- 第276回(3月18日) フィリッピンの經濟調整策……………橋本秀一
- 第277回(4月15日) 抗日時期の中共の土地政策……………古島和雄
- 第278回(4月22日) 中國における古典文學の再評價……………小野忍
- 第279回(4月26日) 印度旅行談……………鈴木中正
- 第280回(5月6日) ショケラと三戸 — 道教の日本傳來の
一例—……………窪徳忠
- 第281回(5月13日) 地理學本質論争の課題 — 中國を例と
して—……………小堀巖
- 第282回(5月20日) 日本人の中國共產黨研究……………衛藤藩吉
- 第283回(5月27日) 瀬戸内海の一漁村 — 山口縣大島郡沖
家室の調査報告—……………大野盛雄

- 第 284 回 (5 月 31 日) 清代における廣東の村落機構の推轉……………今 堀 誠 二
- 第 285 回 (6 月 3 日) 地租改正と土地改革 ——一つの方法論
 として——……………福 島 正 夫
- 第 286 回 (6 月 10 日) 西ウイグルに関する諸問題……………安 部 健 夫
- 第 287 回 (6 月 17 日) 日本をめぐる領土問題 ——千島, 南樺
 太及び臺灣の法的地位——……………植 田 捷 雄
- 第 288 回 (6 月 24 日) 親鸞の主著教行信證を中心とする最近の
 諸問題……………結 城 令 聞
- 第 289 回 (7 月 5 日) アジアのナショナリズムについて……ティボール・メンド
- 第 290 回 (7 月 6 日) 中國木簡史と漢簡……………勞 榦
- 第 291 回 (7 月 8 日) 先秦の國家と地方都市……………關 野 雄
- 第 292 回 (7 月 15 日) 南宋の麥作獎勵と二毛作 ——佃戸制と
 の關聯について——……………周 藤 吉 之
- 第 293 回 (9 月 16 日) 中國古代帝國における基本的階級關係
 ——アジア的共同體の歴史的規定につ
 いての一試論——……………西 嶋 定 生
- 第 294 回 (9 月 23 日) 中國革命における第二段階の展開……………松 本 善 海
- 第 295 回 (9 月 30 日) 唐代後半期における江淮について……………松 井 秀 一
- 第 296 回 (10 月 7 日) 文化人類學と唯物史觀……………石 田 英 一 郎
- 第 297 回 (10 月 14 日) 臺灣・ヴェトナムの近狀 ——土地改革
 を中心として——……………川 野 重 任
- 第 298 回 (10 月 21 日) 繩文土器の曲線紋について……………佐 藤 達 夫
- 第 299 回 (10 月 28 日) 青森縣北津輕郡市浦村福島城址の調査
 ——東北地方古代集落址の調査第二報——
 ………………江 上 波 夫
- 第 300 回 (11 月 11 日) 奄美大島の調査報告……………高 木 宏 夫
- 第 301 回 (11 月 18 日) 漢代以前に於ける黃帝說の一考察……………安 居 香 山

- 第302回(11月25日) 隋の佛教の性格……………結城令聞
- 第303回(12月2日) 青森縣北津輕地方の庚申待調査報告……………窪徳忠
- 第304回(12月9日) 天津條約(1858年)調印後における清國
外政機構の變動——總理衙門設立前
史……………坂野正高
- 第305回(12月16日) 東南アジアの文化事情……………山本達郎
- 昭和31年
- 第306回(1月13日) 中國における土地所有主體の問題
——村落と家族の場合……………仁井田陞
- 第307回(1月20日) 清初・湖南における米穀市場の構造……………重田徳
- 第308回(1月27日) 16・7世紀中國の長江流域における資本
制生産について……………佐伯有一
- 第309回(2月3日) 代田法の新解釋——前1世紀における農
業技術の改革とその性格について……………西島定生
- 第310回(2月10日) 中國における墳丘の生成——北方文化
の波及に寄せて……………關野雄
- 第311回(2月17日) 南宋の郷村制——特に郷都制について……………周藤吉之
- 第312回(2月24日) 回教政權成立前インドの土地所有關係に
ついて——銅板文書を主要資料とし
て……………山崎利男
- 第313回(3月9日) 明朝遺民の畫家……………米澤嘉圃
- 第314回(3月23日) インド留學報告(その一)……………荒松雄
- 第315回(4月13日) 農業生産協同組合の収益分配の問題につ
いて……………古島和雄
- 第316回(4月20日) 越南村落の構造……………山本達郎
- 第317回(4月27日) 中國における農業の社會主義的改造と農
業技術の改革……………野間清

		立……………	吉川逸治
第14講	(10月12日)	「封建的」と「近代以前的」……………	大塚久雄
第15講	(10月19日)	終戦後における在華日本權益の處理とそ の將來……………	植田捷雄
第16講	(10月26日)	日本の社會と自由主義……………	木村健康
第17講	(11月2日)	華北農村における分家の實態……………	仁井田陞
第18講	(11月11日)	中國人と宗教……………	吉川幸次郎
第19講	(11月16日)	近代日本内政の特質……………	岡義武
第20講	(11月30日)	労働組合運動の課題……………	古閑正元
第21講	(12月7日)	土地改革と農村の協同組合……………	近藤康男
昭和22年			
第22講	(1月25日)	日本社會政策思想史……………	大河内一男
第23講	(2月8日)	日本ブルジョア民主主義運動史……………	平野義太郎
第24講	(2月15日)	舊大陸文化とアメリカ文化……………	飯塚浩二
第25講	(2月22日)	經驗の學と權威の學 ——農學史を中心 として——……………	古島敏雄
第26講	(4月26日)	古代國家の精神構造……………	藤間生大
第27講	(5月10日)	神國觀念の歴史的系譜……………	石母田正
第28講	(5月17日)	尊王攘夷思想とナショナルリズム……………	遠山茂樹
第29講	(5月31日)	日本思想史學の回顧と展望……………	家永三郎
第30講	(6月7日)	神政政治の終焉……………	小口偉一
第31講	(6月21日)	絶對主義と農民問題……………	服部之總
第32講	(6月28日)	日本ファシズムの思想と運動……………	丸山眞男
第33講	(10月4日)	三民主義、その形成と發展……………	岩村三千夫
第34講	(10月11日)	西洋および支那における帝王傳記……………	上原專祿
第35講	(10月18日)	日本の労働關係の特質……………	磯田進
第36講	(10月25日)	アジア的なるものの追究……………	幼方直吉

- 第37講 (11月 1日) 中國の祕密結社……………飯塚浩二
- 第38講 (11月15日) 魯迅の歩いた道 ——中國における近代
意識の形成——……………竹内好
- 第39講 (11月29日) 東洋的社會倫理の性格……………仁井田陞
- 第40講 (12月 6日) 儒教批判の歴史……………野原四郎
- 第41講 (12月13日) 東インドの社會構造……………小林良正
- 昭和23年
- 第42講 (1月31日) ソ連の二ヵ年……………福島正夫
- 第43講 (2月 7日) 二つの蒙古 ——外蒙人民共和國より還
りて——……………磯野誠一
- 第44講 (5月 8日) 哲學範疇論 ——アジア的社會と實存哲
學——……………山崎謙
- 第45講 (5月15日) 病態心理學からみた現在の日本社會……………島崎敏樹
- 第46講 (5月29日) 日本人の思考様式……………宮城音彌
- 第47講 (6月 5日) 中國の民族道德……………平野義太郎
- 第48講 (6月12日) 農民の思想家——安藤昌益と二宮尊徳——奈良本辰也
- 第49講 (6月19日) 日本における農民戦争……………服部之總
- 第50講 (10月 2日) アメリカ人のみた日本人の社會心理……………南博
- 第51講 (10月 9日) 社會倫理の轉換……………飯塚浩二
- 第52講 (10月23日) 東洋的社會における停滯性の問題
——中國を中心として——……………松本善海
- 第53講 (11月 6日) 複合社會論……………川野重任
- 第54講 (11月20日) 生産關係よりみたる中國の都市と農村……………今堀誠二
- 第55講 (11月27日) 東京裁判と日本のファシズム……………戒能通孝
- 第56講 (12月18日) アメリカと日本における民主主義……………E.O.ライシャワー

東洋文化講座既刊内容

第1卷 近代日本の特異性 (昭和 23 年 1 月刊)

近代日本政治の特異性	岡 義 武
日本の社會と自由主義	木 村 健 康
日本の民主化についての覚え書	飯 塚 浩 二
跋	飯 塚 浩 二

第2卷 尊攘思想と絶對主義 (昭和 23 年 5 月刊)

尊攘思想とナショナリズム	遠 山 茂 樹
絶對主義と農民問題	服 部 之 總
日本ファシズムの思想と運動	丸 山 眞 男
跋	仁井田陞・飯塚浩二

第3卷 東洋的社會倫理の性格 (昭和 23 年 11 月刊)

中國の近代と日本の近代	竹 内 好
中國人と宗教	吉 川 幸 次 郎
胡適氏と儒教	野 原 四 郎
東洋的社會倫理の性格	仁 井 田 陞
跋	飯 塚 浩 二

第4卷 戦後のソ連社會 (昭和 24 年 2 月刊)

戦後のソ連社會	福 島 正 夫
跋	飯 塚 浩 二

C 東洋文化研究會議

主 催 者	岩 井 大 慧 (東 洋 文 庫)
	結 城 令 聞 (東 方 文 化 學 院)
	仁 井 田 陞 (東 洋 文 化 研 究 所)
	飯 塚 浩 二 (東 洋 文 化 研 究 所)
	小 野 忍 (中 國 文 學 研 究 會)
	平 野 義 太 郎 (中 國 研 究 所)

岩村 忍 (中國研究所)
幼方直吉 (中國研究所)
野原四郎 (中國研究所)

第1回 (昭和22年11月7・8日)

(會場 東洋文庫)

第1日「東洋の家」 議長……………飯塚浩二
印度の家……………中村元
中國の家……………仁井田陞
イスラムの家……………岩村忍
日本の家……………川島武宜

第2日「東洋の官僚」 議長……………仁井田陞
歐米の官僚……………鶴飼信成
中國に於ける官僚批判の文學……………小野忍
中國の官僚……………和田清
日本の官僚……………中村哲

右の報告・討論は「東洋の家と官僚」と題して昭和23年12月、生活社より刊行。

第2回 (昭和23年11月13・14日)

(會場 東洋文化研究所)

第1日「東洋における知識人の性格」 議長……………平野義太郎
ヨーロッパ……………松田智雄
中國……………吉川幸次郎
ロシア並に日本……………除村吉太郎

第2日「東洋における神權政治」 議長……………岩村忍
日本……………小口偉一
中國……………宇野精一
ヨーロッパ……………戒能通孝

第3回 (昭和25年5月13日)

(會場 東洋文庫)

「東洋の土地問題——最近における土地改革を中心として——」

議長……………平野義太郎・仁井田陞

日本の農地改革と農村の社會關係——地主の小作地取上

を中心として——……………古島敏雄

中共の土地改革……………旗田巍

右の報告は「東洋文化 第4號 特集・後進國の農業問題」に掲載。

附錄 東洋學會とその機關誌「東洋文化研究」及び「東洋文化」

東洋文化研究

創刊號（昭和19年10月）

發刊の辭……………宇野圓空

ラオスの法律的性格……………宮澤俊義

支那の開國と國際法……………植田捷雄

宋代の商慣習「賒」に就いて……………加藤繁

大木文庫と大木さん……………仁井田陞

文化史上に於ける原始人……………築島謙三

紹介批評

「民族研究所紀要 第1冊」……………小口偉一

北京大學農村經濟研究所編「報告長編創刊號・第2號」……………川野重任

「輔仁學誌 (Monumenta Serica) 第8卷」……………鈴木中正

第2號（昭和21年9月）

米國最近の對華政策……………植田捷雄

村の祭祀と家の祭祀……………宇野圓空

東洋的文化の變貌……………飯塚浩二

東亞原始民族に於ける教育……………大場千秋

鏢局小志……………今堀誠二

紹介批評

村田治郎「滿洲の史蹟」……………三上次男

大熊眞「幕末期東亞外交史」……………坂野正高

第 3 號 (昭和 22 年 3 月)

福澤に於ける「實學」の轉回……………	丸 山 眞 男
東南亞細亞に於ける大土地所有の形成とその經濟的機能……………	川 野 重 任
言語表現に於ける象徴意識の様相……………	築 島 謙 三

紹介批評

吉川幸次郎氏「支那人の古典とその生活」をよみて……………	鈴 木 中 正
「立博士外交史論文集」……………	坂 野 正 高

第 4 號 (昭和 22 年 6 月)

華北農村に於ける家族分裂の實態……………	仁 井 田 陞
ヴェーダーンタ哲學の基本的立場……………	中 村 元

第 5 號 (昭和 22 年 8 月)

特輯 世界新機構と東洋

日本の國際的地位……………	高 野 雄 一
國際聯合と中國の地位……………	入 江 啓 四 郎
東亞諸國とブレトン・ウッズ……………	原 吾 郎
フィリピン・ダバオに於ける日本人の發展(一)……………	鈴 木 忠 和

第 6 號 (昭和 22 年 10 月)

東亞に於ける最初の大司教モンテ・コルヴィノの傳道とその動

機……………	江 上 波 夫
阿片戰爭後における最惠國待遇の問題……………	坂 野 正 高
フィリピン・ダバオにおける日本人の發展(二)……………	鈴 木 忠 和
懺悔道の宗教性 —— 田邊元著「懺悔道としての哲學」をよみ て——……………	宇 野 圓 空

紹介批評

野村吉三郎「米國に使して」……………	植 田 捷 雄
--------------------	---------

第 7 號 (昭和 23 年 2 月)

新東亞と日本農業 —— その生産力的關聯について——……………	川 野 重 任
---------------------------------	---------

中國經濟と貿易……………飯田藤次
 ヴェーダーンタ哲學における絶對者觀念……………中村元
 鎖國日本の觸角……………魚返善雄
 紹介批評

矢澤利彦「中國と西洋文化」……………鈴木中正

第 8 號 (昭和 26 年 9 月)

ヴェーダーンタ哲學における個我の問題……………中村元
 佛敎的思考……………梶芳光 運
 シャマニズム的世界觀の問題……………小口偉一
 紹介批評

内藤虎次郎「中國中古の文化」と「中國近世史」……………山本達郎

第 9 號 (昭和 23 年 9 月)

ヴェーダーンタ哲學に於ける宗教的實踐……………中村元
 舊中國社會の特質論への反省……………松本善海
 清代に於ける宗教的叛亂の性格……………鈴木中正
 紹介批評

今堀誠二「北平市民の自治構成」……………仁井田陞

アルバート・ハイマ「極東における和蘭」……………荒松雄

貝塚茂樹「中國古代史學の發展」……………江上波夫

第 10 號 (昭和 24 年 2 月)

中國の工業化問題……………橋本秀一

日本に於ける華僑社會の形成 —— 公所團體の成立經過につい

て——……………内田直作

舊中國國家の特質論への反省……………松本善海

紹介批評

Hsien Chin Hu: 中國人の「顔」の觀念……………築島謙三

飯塚浩二「世界史における東洋社會」……………花村芳樹

石田英一郎「河童駒引考」……………小 口 偉 一

第 11 號 (昭和 24 年 5 月)

古代印度の婚姻儀式……………辻 直 四 郎

思惟の原初的形式とその發展……………築 島 謙 三

釜山開港を繞る若干の論議……………秋 保 一 郎

東 洋 文 化

第 1 號 (昭和 25 年 2 月)

東亞における生活様式の諸類型……………飯 塚 浩 二

北京工商ギルドの職業倫理……………仁 井 田 陞

ファニーヴァル「複合經濟論」の構造と批判……………川 野 重 任

日本の勞働關係の特質 ——法社會學的研究——……………磯 田 進

報告・討論 人身賣買の問題

報 告……………川 島 武 宜

討 論……………飯塚浩二・磯田進・仁井田陞・丸山眞男・村川堅太郎

史書なき印度の歴史……………辻 直 四 郎

匈奴フン同族論の批判……………榎 一 雄

第 2 號 (昭和 25 年 5 月)

西洋及び中國における帝王傳記……………上 原 專 録

中國繪畫における庶民……………米 澤 嘉 圃

日本における宗教とファシズム……………小 口 偉 一

報告・討論 日本人の思惟方法

報 告……………中 村 元

討 論……………辻直四郎・服部四郎・山崎正一・山本達郎・甘粕石介・佐木秋夫

日本ブルジョア民主主義運動史……………平 野 義 太 郎

アメリカの極東研究……………山 本 達 郎

書 評

村松祐次「中國經濟の社會態制」……………橋 本 秀 一

第 3 號 (昭和 25 年 7 月)

中國における封建的商工業の機構 ——生産關係より見たる内

蒙古の都市と農村——……………今 堀 誠 二
近代・それを如何に把握するか……………まつしま・えいいち
身分と賃銀……………美濃口時次郎
報告・討論 日本軍隊の崩壊 ——將校出身學生との共同研究——

飯塚浩二・飯田林三・小松元一

書 評

橋樸「中國革命史論」……………花 村 芳 樹
趙元任・楊聯陞: Concise Dictionary of Spoken Chinese…伊地智義繼
パール・バック「キンフォーク」……………仁井田 陞

第 4 號 (昭和 25 年 11 月)

特集・後進國の農業問題

地主の小作地取上と農業改革の限界……………古 島 敏 雄
中國土地改革の歴史的 성격……………旗 田 巍
華北農業の技術水準……………福 島 要 一
報告・討論 後進國の近代化

報 告……………江 口 朴 郎
討 論……………遠山茂樹・飯塚浩二・村松祐次・鈴木正四・仁井田陞

書 評

松田智雄「イギリス資本と東洋」……………衛 藤 藩 吉
鈴江言一「孫文傳」……………仁井田 陞

第 5 號 (昭和 26 年 2 月)

中國社會の「封建」とフェーダリズム……………仁井田 陞
家族主義社會の道德 ——中國農村の調査結果をめぐつて——…築 島 謙 三
日本における古代國家の形成……………井 上 光 貞

書 評

外務省「條約改正經過概要」	植田捷雄
山本達郎「安南史研究(-)」	和田久徳
中國研究所「現代中國辭典」	小堀巖

第 6 號 (昭和 26 年 9 月)

インド民族資本の精神構造への一視點 —— チャイナ教の經濟

倫理——	中村元
中國における自由と資本主義	村松祐次
完成期に入る華語學 —— B. Karlgren 教授近年の業績——	魚返善雄
報告・討論 日本古代國家の形成	
報 告	江上波夫
討 論	長谷部言人・三上次男・藤間生大・和島誠一
書 評	
飯塚浩二「日本の軍隊」	幼方直吉

第 7 號 (昭和 26 年 10 月)

ウェーバーの儒教觀	貝塚茂樹
華僑資本の前期的性格 —— マレーの陸佑財閥を中心として ——	内田直作
唐末諸叛亂の性格 —— 中國における貴族政治の没落について ——	堀敏一
書 評	

トマス・ライエル「一英國人の見たる日本及日本人」	築島謙三
--------------------------	------

第 8 號 (昭和 27 年 2 月)

日獨伊三國同盟の締結とその目的 —— 極東國際軍事裁判の記

録を中心として ——	植田捷雄
中國經濟發展の量的把握	石川滋
農村人口問題の經濟理論的性格に関する覺書	川野重任
「西田哲學」の史的構造分析 —— その位置付けのための試論 ——	宮川透
書 評	
貝塚茂樹「孔子」	小倉芳彦

第 9 號 (昭和 27 年 6 月)

明治初年の經濟政策と資本蓄積の問題 ——大久保・大隈構想

と松方構想——……………福 島 正 夫

中國史に於ける新と舊——「織工對」の分析をめぐる諸問題——藤 井 宏

中國における異端思想の展開……………山 本 秀 夫

ソ同盟における最近のアジア研究……………香 山 陽 坪

書 評

馬鶴天「内外蒙古考察日記」——ジョン・ド・フランシス譯

より——……………坂 本 是 忠

第 10 號 (昭和 27 年 9 月)

アジアの解放とナショナルリズム……………飯 塚 浩 二

アジアのナショナルリズム ——インドネシアの三つの類型——…隅 谷 三 喜 男

モンゴル民族主義の一般的考察……………坂 本 是 忠

日本におけるプロテスタンティズムの移入……………大 内 三 郎

書 評

Milbank Memorial Fund: Modernization Programs in

Relation to Human Resources and Population Problems,

1950……………川 野 重 任

第 11 號 (昭和 27 年 11 月)

中共の宗教政策と民衆道教……………窪 徳 忠

インドネシアにおける合議制と専制制……………築 島 謙 三

わが國における國民教化の一特質 ——「家族國家」觀の形成

過程を通じて——……………石 田 雄

第 12 號 (昭和 28 年 3 月)

唐末五代の莊園制……………周 藤 吉 之

わが國における國民教化の一特質 (承前) ……………石 田 雄

農村の世間體……………大 牟 羅 良

書 評

Chen Han-Seng 陳翰笙: Frontier Land Systems in

Southern-most China, I. P. R., New York, 1949.....中村治兵衛

第 13 號 (昭和 28 年 9 月)

中國における速成識字法とその問題.....倉石武四郎

新中國の司法制度とその特色 (一).....福島正夫

エミール・レーデラーの日本觀.....大野俊一・飯塚浩二

第 14 號 (昭和 29 年 1 月)

東北地方に於ける土地所有の實態と地主の成立について...長井政太郎・工藤定雄

新中國の司法制度とその特色 (二).....福島正夫

四川省達縣における土地改革について.....福地いま

第 15・16 合併號 (昭和 29 年 3 月)

志摩漁村の寢屋婚・つまどい婚について.....川島武宜

日本に於ける近代哲學形成史の一斷面 ——特に田邊哲學に於

けるドイツ・イデアリスムス解釋を中心に——.....宮川透

町人文學と町人道德.....生松敬三

イスラム諸國における養子について.....米村小夜子

歐米の人類學界をめぐつて.....石田英一郎

第 17 號 (昭和 29 年 11 月)

新中國に於ける農民的土地所有の性格 ——ソ同盟土地立法の

發展と對比して——.....福島正夫

茅盾 ——人と作品——.....小野忍

陶行知 政治的抒情詩人.....齊藤秋男

第 18・19 合併號 (昭和 30 年 3 月)

近世的村落共同體と家.....大石慎三郎

中國の勞働者についての覺書.....佐伯有一

エミール・レーデラー「極東の四萬字」.....大野俊一譯

第 20 號 (昭和31年 1 月)

中國共產黨の誕生前後	伊藤武雄
ミッチェル報告書について	衛藤瀧吉
農村の生計分析	鹿股壽美江

第 21 號 (昭和31年 3 月)

婚舎のあり方について	瀬川清子
中國人民共和國における結婚登記について	浅井敦
資料紹介 香川縣農民運動の史的考察	山名伸作

VIII 研究課題

昭和 26 年度

(一) 共同研究

1 比較文化論的立場からみた日本文化

A 比較文化論的立場からみた日本文化の特質 ——特に日本

の軍隊を中心として——飯塚浩二

B 日本人移民における輸入文化と固有文化泉靖一

C 社會科學における日本的考え方とアメリカ的考え方築島謙三

D 比較哲學基礎論宮川透

E 近代日本思想の史的構造分析宮川透

2 ユーラシアにおける民族と文化

A ユーラシアにおける文化交流江上波夫

B 北海道ストーン・サークルおよびオホーツク式遺跡の調査

研究關野雄

C ユーラシア大陸における遊牧民族の形成石田英一郎

D 遊牧民の生活と文化泉靖一

E 内モンゴル・ステップ地帯における中國人社會の性格小堀巖

- F 東南アジアにおける文化交流……………山 本 達 郎
- 3 民族宗教と社會倫理
- A 隋唐における中國的佛教成立の諸要素と成立過程……………結 城 令 聞
- B 戦後新宗教集團の成立に関する研究……………小 口 偉 一
- C 中國民衆道教の研究……………窪 德 忠
- D 倫理的規範認知の構造……………築 島 謙 三
- E 庶民の宗教と經濟倫理 ——日本における生産力展開を中
心として——……………花村芳樹・高木宏夫
- F 庶民の宗教 ——行動と態度について——……………高 木 宏 夫
- 4 東洋における國家構造の史的研究
- A 中國社會の「封建」とフェューダリズム……………仁 井 田 隆
- B 原始社會の發展過程と國家の起源……………石 田 英 一 郎
- C 中國古代國家の成立……………關 野 雄
- D 中國古代社會における階級と身分……………西 嶋 定 生
- E 中國古代村落制度 ——とくに秦漢の郷里制——……………松 本 善 海
- F 唐末五代における貴族政治の没落……………堀 敏 一
- G 宋代における官僚制の成立過程……………周 藤 吉 之
- H 金代の官僚と全眞教團……………窪 德 忠
- I 中國近世における農民叛亂の特質……………佐 伯 有 一
- J 安南の政治と社會……………山 本 達 郎
- K モガル帝國の地方行政および revenue 徵收システム……………荒 松 雄
- 5 東洋における土地制度史
- A 均田法施行以前における土地制度史 ——とくに魏晉時代
における——……………西 嶋 定 生
- B 均 田 法 の 成 立……………松 本 善 海
- C 莊 園 の 成 立……………周 藤 吉 之
- D 莊 園 の 發 展……………古 島 和 雄

E インドにおける土地所有關係の變貌 ——とくに

zamīndārī, mahālwarī システムについて——……………荒 松 雄

6 東洋における國際政治秩序の近代化過程

A 中國の邊境喪失の過程……………植 田 捷 雄

B 李鴻章の對外政策と中國の近代化……………植 田 捷 雄

C アヘン戦争より天津條約に至る英國極東政策の展開……………衛 藤 藩 吉

7 東洋的經濟秩序における發展の構造

A アジアのナショナルリズムと經濟の再編成……………飯 塚 浩 二

B 農地改革と資本蓄積……………川 野 重 任

C インドネシアの經濟自立と工業化問題……………橋 本 秀 一

D 後進の經濟構造とナショナルリズム……………花 村 芳 樹

(二) 個 別 研 究

A 古代中國の度量衡に關する研究……………關 野 雄

B 中國に關する地理學的知識の發達……………小 堀 巖

C 中國家族法研究 ——とくに婚姻法について——……………仁 井 田 陞

D 華中稻作の展開……………古 島 和 雄

E 中國近世の手工業および機械工業の史的研究……………佐 伯 有 一

F 中國單色畫史の研究——とくに秦漢六朝の白畫について——米 澤 嘉 圃

G 孔子の研究 ——その人柄に接近する試み——……………小 倉 芳 彦

H 全眞教團の經濟的基礎……………窪 德 忠

I 中國固有文化の變貌——キリスト教の傳來をめぐつて——…窪 德 忠

J インドにおける分派時代および中國における初期の唯識思想……………結 城 令 聞

(三) 文部省科學研究費による研究

各 個 研 究

- A 本邦北端における文化形成の研究……………江上波夫
- B 本邦巫俗の研究……………小口偉一
- C 物價水準の變動と農業……………川野重任
- D アヘン戦争前後における清国外交資料の基礎的研究……………植田捷雄

昭和 27 年度

(一) 共同研究

1 ユーラシア大陸における民族と文化交流

江上波夫・山本達郎・小堀巖・中根千枝・大林太良

2 中國における政治機構の史的研究

- A 中國古代國家の成立……………關野雄
- B 中國古代社會における階級と身分……………西嶋定生
- C 中國古代の村政 ——特に秦漢の郷里制と什伍——……………松本善海
- D 五代, 宋における官僚制 ——その成立過程——……………周藤吉之
——黨争への展開——……………堀敏一

3 東洋における土地所有制の展開

- A 中國社會の「封建」とフューダリズム……………仁井田陞
- B 均田法施行以前における土地制度史 ——魏晉時代における——……………西嶋定生
- C 北朝における均田法と租庸調制……………松本善海
- D 莊園の成立とその發展……………周藤吉之
- E 莊園の變貌過程 ——明末清初における——……………古島和雄
——清末における——……………佐伯有一
- F インドにおける土地所有關係の變貌 ——特に zamīndārī, mahālwārī システムについて——……………荒松雄
- G チベットにおける土地所有關係の特質 ——莊園を中心として——……………中根千枝

- 4 中國における固有思想と外來思想との交渉 ——特に南北朝
時代を中心として——……………結城令聞・小口偉一・窪徳忠
- 5 日本の村の體制と意識……………飯塚浩二・築島謙三・花村芳樹・高木宏夫
- 6 現代日本における宗教集團の成立と發展……………
小口偉一・築島謙三・高木宏夫・花村芳樹・結城令聞・窪徳忠
- 7 アジア經濟における發展の構造
- A 農地改革と資本蓄積……………川野重任
- B アジアのナヨナリズムと經濟の再編成……………飯塚浩二
- C インドネシアの經濟構造……………橋本秀一
- D 後進國の經濟構造……………花村芳樹
- 8 東洋國際政治秩序の近代過程
- A 中國の邊境喪失過程……………植田捷雄
- B 日露戰爭後における日本の國際的地位……………植田捷雄
- C アヘン戰爭より天津條約に至る英國極東政策の展開……………衛藤藩吉

(二) 個別研究

- A 中國家族法研究 ——特に婚姻法について——……………仁井田陞
- B インドにおける分派時代の唯識思想……………結城令聞
- C 明清繪畫史の研究……………米澤嘉圃
- D 原始社會發展過程と國家の起源(假題)……………石田英一郎
- E 中國古代の度量衡に関する研究……………關野雄
- F 中國に関する地理學的知識の發達……………小堀巖
- G 孔子の研究 ——その人格に接近する試み——……………小倉芳彦
- H 18・9世紀における中國織物業の展開……………佐伯有一
- I 南アメリカにおける日本人移民の變容 ——生活様式と體
質の變化——……………泉靖一
- J 近代日本哲學思想の史的構造の分析 ——比較哲學の見地

から——……………宮 川 透

(三) 文部省科学研究費による研究

1 機關研究 (昭和 27~28 年度)

東洋諸民族における固有文化の變容過程……………代表者 前所長 辻 直四郎
現所長 仁井田 陞

2 各 個 研 究

A 西藏を繞る英、印、華關係……………植 田 捷 雄
B 中國法と蒙古法 ——その特質と歴史的交渉—— (昭和 27
~28 年度)……………仁井田 陞

昭和 28 年度

(一) 共 同 課 題

1 東洋における土地所有制の展開

A 家父長制と所有主體の問題……………仁井田 陞
B 均田法施行以前における土地制度史 ——魏晉時代におけ
る——……………西 嶋 定 生
C 北朝における均田法と租調制……………松 本 善 海
D 莊園の成立とその發展……………周 藤 吉 之
E 封建的土地所有の解體 ——華東地區——……………佐 伯 有 一
——中南地區——……………重 田 德
——國民革命以後——……………古 島 和 雄
F インドにおける土地所有關係の變貌 ——特に zamindārī,
mahālwarī システムについて——……………荒 松 雄
G チベットにおける土地所有關係の特質 ——莊園を中心と
して——……………中 根 千 枝

2 ユーラシアにおける民族と文化

- A 北方ユーラシアの櫛目文土器文化の研究……………江上波夫
- B 中國邊疆の地誌學的研究……………小堀巖
- C 北方ユーラシアにおける採集狩獵民の社會組織……………泉靖一
- D アッサムの文化層……………大林太良
- E 黎朝刑律の研究……………山本達郎
- F ユーラシア大陸の母子神信仰……………石田英一郎
- 3 日本の村の體制と意識……………飯塚浩二・築島謙三・花村芳樹・高木宏夫
- 4 近代日本イデオロギーの構造
- A 權威主義の構造……………小口偉一
- B 官學イデオロギーの構造分析……………宮川透
- C 近代日本におけるモラルの問題……………生松敬三
- D 明治以後における神道思想の展開……………高木宏夫
- E 明治以後における佛教思想の展開……………結城令聞
- F 家族主義の確立……………福島正夫
- G 言語表現と思考……………築島謙三
- H 西洋人の日本觀……………飯塚浩二
- 5 現代中國の研究 ——土地改革を中心として——
- A 土地改革と家族制度……………仁井田陞
- B 土地改革と郷村機構……………松本善海
- C 土地改革と文學……………小野忍
- D 土地改革に伴う諸立法の發展……………福島正夫
- E 土地改革に及ぼす政治情勢の影響……………衛藤藩吉
- F 土地改革と經濟建設……………古島和雄
- G 土地改革から教えられること ——日本の農地改革との比較——……………花村芳樹
- H 少數民族地域における土地改革……………小堀巖
- 6 東洋的經濟秩序における發展

- A 農地改革と資本蓄積……………川野重任
- B 東南アジアの經濟建設……………橋本秀一
- 7 日本の水産業 ——その經濟地理的研究——……………飯塚浩二・大野盛雄
- 8 中國における固有思想と外來思想との交渉……………結城令聞・窪徳忠
- 9 中國における政治機構の史的研究
 - A 中國古代國家の成立……………關野雄
 - B 中國古代社會における階級と身分……………西嶋定生
 - C 中國古代の村政 ——特に秦漢の郷里制と什伍——……………松本善海
 - D 中國における貴族政治の没落……………堀敏一
 - E 五代・宋における官僚制 ——その成立過程——……………周藤吉之

(二) 個別研究

- A 隋・唐時代の中國單色畫史の研究……………米澤嘉圃
- B 中國法と隣接諸國法との交渉……………仁井田陞
- C 日露戦争とセオドア・ルーズヴェルト……………植田捷雄
- D 古代中國の度量衡に関する研究……………關野雄
- E 中國現代作家の研究……………小野忍
- F 18・9 世紀における中國織物業の展開……………佐伯有一

(三) 文部省科學研究費による研究

各個研究 (昭和 28~29 年度)

中國における經濟建設過程の地理學的研究……………飯塚浩二

昭和 29 年度

(一) 共同課題

1 東洋における土地所有制の展開

A 中國における土地所有の主體の問題……………仁井田陞

- B 明清時代における地主制の展開
- 1 長江デルタ地區……………佐伯有一
- 2 湖南地區……………重田徳
- C インドにおける土地所有關係の變貌——特に zamindari, mahālwarī システムについて——……………荒松雄
- D チベットにおける土地所有關係の特質——莊園を中心として——……………中根千枝
- 2 周邊アジアの民族と文化
- A 母子神信仰の比較民族學的研究……………石田英一郎
- B アイヌの社會組織……………泉靖一
- C 東南アジア大陸諸民族の親族組織……………大林太良
- D 北方ユーラシアの楯目文土器文化の研究……………江上波夫
- E 北海道先史文化の編年的研究……………佐藤達夫
- 3 日本の村の體制と意識
- A 日本の村の體制と意識……………飯塚浩二
- B 村人のパーソナリティー……………築島謙三
- C 部落構造の研究……………花村芳樹
- D 教團加入について……………高木宏夫
- 4 近代日本イデオロギーの構造
- A 權威主義の權造……………小口偉一
- B 日本における社會主義思想の系譜と構造……………宮川透
- C 近代日本における文學者たち——特に鷗外と漱石を中心
に——……………生松敬三
- D 宗教教團の成立過程——明治時代の新宗教について——…高木宏夫
- B 家族主義の確立……………福島正夫
- F 日本人の思考過程……………築島謙三
- 5 現代中國の研究——土地改革を中心として——

- A 土地改革と家族制度……………仁井田 陞
- B 土地改革と郷村機構……………松本善海
- C 土地改革と文學……………小野 忍
- D 中國土地法の發展……………福島正夫
- E 土地改革に及ぼす政治情勢の影響……………衛藤瀋吉
- F 土地改革と經濟建設……………古島和雄
- G 日本の土地改革と中國の土地改革……………花村芳樹
- H 中國における經濟建設過程の地理學的研究……………小堀 巖
- 6 東洋的經濟秩序における發展
- A 農地改革と資本蓄積……………川野重任
- B 東南アジアの經濟建設……………橋本秀一
- 7 日本の漁業 ——その經濟地理學的研究——……………飯塚浩二・大野盛雄
- 8 中國における固有思想と外來思想との交渉……………結城令聞・窪德忠
- 9 東洋における政治機構の史的研究
- A 中國古代國家の成立……………關野 雄
- B 中國古代社會における階級と身分……………西嶋定生
- C 中國古代の村政 ——隣保制の展開——……………松本善海
- D 中國における貴族政治の没落……………堀 敏一
- E 五代・宋における官僚制 ——その成立過程——……………周藤吉之
- F 安南の政治機構……………山本達郎
- G インドにおける國家權力と村落 ——回教政權成立前——…山崎利男

(二) 個別研究

- A 五代・北宋時代の中國單色畫史の研究……………米澤嘉圃
- B 北方民族法と中國法との交渉……………仁井田 陞
- C 日露戰爭とセオドア・ルーズヴェルト……………植田捷雄
- D 中國古代文化の地方色に關する研究……………關野 雄

- E 中國現代作家の研究……………小 野 忍
- F 18・9 世紀における中國織物業の展開 ……………佐 伯 有 一
- G 中國地理學史の研究……………小 堀 巖
- H 法然と親鸞との思想史的研究……………結 城 令 聞
- I 日本資本主義の發達と私法……………福 島 正 夫
- J 道教とその日本に及ぼした影響……………窪 德 忠
- K 日本中世の思想史的研究……………生 松 敬 三
- L 東南アジアの日蝕神話の研究……………大 林 太 良

(三) 特 殊 研 究 (昭和 29~32 年度)

東北地方に於ける聚落址の研究……………江上波夫・關野雄・佐藤達夫

(四) 文部省科學研究費による研究

各 個 研 究

- A 戦後集團轉宗の調査研究……………小 口 偉 一
- B 中國畫款印の研究 (昭和 29~30 年度)……………米 澤 嘉 圃

昭和 30 年度

(一) 共 同 課 題

- 1 周邊アジアの民族と文化
 - A 北アジアにおける集落址の研究……………江 上 波 夫
 - B 太平洋をめぐる文化潮流……………大 林 太 良
 - C 北海道先史文化の編年的研究……………佐 藤 達 夫
 - D ウマの飼育を中心としたユーラシア大陸の文化交流……………石 田 英 一 郎
 - E 南アジアにおける稻米耕作……………中 根 千 枝
- 2 中國における固有思想と外來思想の交渉……………結城令聞・窪德忠
- 3 中國をめぐる近代國際關係の展開

- A 中國の國際的地位の變動 ——第一次大戰後を中心として
 ——.....植 田 捷 雄
- B 外壓と中國の政治構造 ——總理衙門の機能を中心とする
 考察.....坂 野 正 高
- C 英國對華政策の政治過程.....衛 藤 藩 吉
- 4 東洋における土地所有の展開
- A 中國における土地所有の主體の問題 ——村落の場合——...仁 井 田 陞
 ——家族の場合——...高 橋 庸 三
- B 均田制成立以前における土地制度.....西 島 定 生
- C 明代における地主的土地所有と村落體制の變遷.....佐 伯 有 一
- D 明末清初の賦役改革と地主制 ——とくに「地丁併徵」を
 中心として——.....重 田 德
- E インドにおける土地所有關係の變貌.....荒 松 雄
- 5 東洋における政治機構の史的的研究
- A 先秦諸國の國家機構.....關 野 雄
- B 宋代の農村機構.....周 藤 吉 之
- C 越南の政治機構.....山 本 達 郎
- D 回教政權成立前の北インドにおける國家權力と村落.....山 崎 利 男
- 6 現代中國の研究
- A 革命發展の諸段階と政治建設.....松 本 善 海
- B 土地改革に及ぼせる政治情勢の影響.....衛 藤 藩 吉
- C 土地立法の發展.....福 島 正 夫
- D 婚姻法の發展.....仁 井 田 陞
- E 1920年代の労働運動.....佐 伯 有 一
- F 農業集團化について.....古 島 和 雄
- G 經濟建設による地域社會の變貌.....小 堀 巖
- H 文學におけるリアリズムの系譜.....小 野 忍
- 7 アジア的經濟秩序と發展の構造

- A 東南アジア米穀經濟の構造變動……………川野重任
 B 東南アジアの經濟建設……………橋本秀一
- 8 日本の村の體制と意識
- A 地域と郷土……………飯塚浩二
 B 部落の構造……………花村芳樹
 C 氏子組織・檀家組織・講組織と意識との關係……………高木宏夫
 D 村落制度の研究……………田澤美津子
- 9 近代日本イデオロギーの研究
- A 農村社會におけるキリスト教……………小口偉一
 B 神道的イデオロギーの系譜……………高木宏夫
 C 日本啓蒙思想の特質……………宮川透
 D 近代日本文學の思想史的研究……………生松敬三
 E 外國人の日本觀……………築島謙三
- 10 日本の漁業 ——その經濟地理的研究——……………飯塚浩二・大野盛雄

(二) 個別研究

- A 北宋文人畫の研究……………米澤嘉圃
 B 中國地理學史の研究……………小堀巖
 C 古典ヒンドゥ法の研究……………山崎利男
 D 法然と親鸞との思想的つながり……………結城令聞
 E 文化の心理學基礎論……………築島謙三
 F 道教の日本への傳播……………窪徳忠
 G 兼業農家と勞働市場……………花村芳樹

(三) 文部省科學研究費による研究

各個研究

- 戦後集中傳道の實態調査……………小口偉一

昭和 31 年度

文部省科学研究費による研究

1 総合研究

- A 中國農村慣行の法社會學的研究……………代表者 福 島 正 夫
- B 農業經濟の特殊性に關する理論的・實證的研究……………代表者 川 野 重 任

2 各個研究

- A 中國佛家人名辭典の補充及び補修……………結 城 令 聞
- B 韓國併合（明治 43 年）の研究……………植 田 捷 雄

東洋文化研究所圖書閱覽規定

（昭和 24 年 5 月 6 日）

- 1, 書庫に入つて圖書を検索するには、圖書係員の承諾を得なければならない。
- 2, 本研究所員（教授、助教授、助手及び研究員）及び圖書係員以外の者は、書庫に入つて圖書を検索し圖書を借出することができない。但し本研究所、舊東方文化學院の舊關係者及び本研究所以外の本學教授、助教授、助手、副手で所長がこれを認めた者はこの限りでない。
- 3, 本學教授、助教授の紹介により、所長が閱覽を許可したものには、有効期間一年の閱覽票を交付し、圖書係室で圖書を閱覽させる。
但し前記の紹介者の紹介により臨時に閱覽しようとする者には、所長の許可があつた場合、閱覽票を交付せずに圖書係室で圖書を閱覽させる。
- 4, 本研究所、舊東方文化學院の舊關係者には、有効期間 1 年の特別閱覽票を交付し、圖書係室で圖書を閱覽させる。
- 5, 圖書の借出は、1 人合計 20 部を越えてはならない。圖書の借出には、各自の帳簿及び規定の用紙に定められた事項を記入し、かつ借出及び返却の際には、出納手に圖書帳簿の照合をうけなければならない。
- 6, 圖書の借出期間は 3 ヶ月を限り（雑誌は 1 ヶ月）繼續借出の必要があるとき

は手續を更新しなければならない。

但し春秋二季の圖書點檢の際には、借出した圖書を全部返却しなければならない。

- 7, 借出した圖書を轉貸してはならない。
- 8, 貴重圖書は、所長の承認を経なければ借出せない。
- 9, 未整理の圖書は、圖書主任の承認を経なければ借出せない。
- 10, 圖書は研究室以外に帶出してはならない。又圖書係室備付の圖書は、同室以外に帶出してはならない。
- 11, 本學の他研究所、學部圖書で、本研究所研究室まで帶出を許可される場合には、本研究所圖書も、他研究所、學部研究室まで帶出することを認める。但し本研究所からの帶出圖書に對しては本研究所の規定を適用する。
- 12, 圖書を破損し、又は失つたときは辨償させる。辨償の方法は所員會の議による。
- 13, 圖書を書庫及圖書係室以外の室に常置するには、所員會の議による。

昭和 31 年 11 月 20 日 印 刷

昭和 31 年 11 月 26 日 發 行

東京都文京區大塚町 56

編 集 兼
發 行 者

東京大學東洋文化研究所

東京都板橋區双葉町 2

印 刷 所 株 式 會 社 三 陽 社